2021年8月26日プレスリリース

イベント

山口情報芸術センター［YCAM］

坂本龍一＋高谷史郎＋YCAM ART–ENVIRONMENT–LIFE 2021

2021年10月8日（金）～2022年1月30日（日）
山口情報芸術センター［YCAM］スタジオA、サテライトA、常栄寺

いま、改めて見つめ直す〈アート〉〈環境〉〈ライフ〉 坂本龍一と高谷史郎の名作を一挙に再展示！

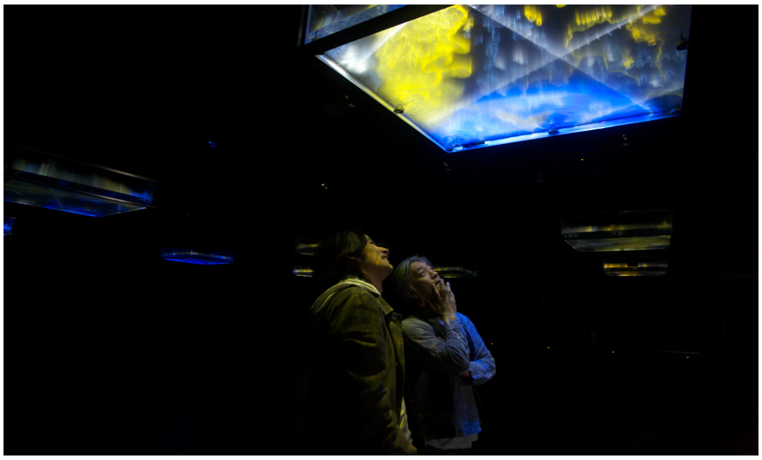
山口情報芸術センター［YCAM］では、「山口ゆめ回廊博覧会」の一環として、音楽家の坂本龍一とアーティストの高谷史郎とYCAMによる展覧会「ART–ENVIRONMENT–LIFE（アート・エンバイロメント・ライフ）2021」を開催します。
坂本と高谷はともに開館以来、YCAMにおいてインスタレーション作品などを多数制作／発表しており、共作も手がけてきました。本展では、坂本と高谷が過去にYCAMで制作／発表した3つのインスタレーション作品をYCAMをはじめとする市内各所で発表します。
霧に投影される映像とそれに融合するサウンドが環境への感覚を開く《LIFE — fluid, invisible, inaudible...（ライフ — フルーイド、インビジブル、インオーディブル）》、世界各地の樹木の生体データからサウンドを生成する《Forest Symphony（フォレスト・シンフォニー）》。水が見せる複雑な変化を抽出することで新たな空間を創出する《water state 1（ウォーター・ステート1）》。
いずれの作品も、鑑賞者に繊細な感性の揺らぎを喚起させ、過去から未来へ向けたアートや環境、生活に対する思考の連鎖をもたらすでしょう。この機会にぜひご体験ください。

展示作品のひとつ坂本龍一＋高谷史郎《water state 1》
撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

［お問い合わせ］
山口情報芸術センター［YCAM］学芸普及課 広報担当
〒753-0075 山口県山口市中園町7-7
TEL：083-901-2222　FAX：083-901-2216　メールアドレス：press@ycam.jp　ウェブサイト：www.ycam.jp
取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

〈アート〉〈環境〉〈ライフ〉を巡る坂本龍一の思考と実践



作品制作時の坂本龍一と高谷史郎（2007年）
撮影：丸尾隆一（YCAM）

YCAMは、開館以来、メディア・テクノロジーを応用した新たな表現の探求を活動の軸に据えており、これまでに三上晴子、エキソニモ、カールステン・ニコライ、中谷芙二子といった第一線で活躍するアーティストたちとともに多種多様なインスタレーション作品を制作／発表してきました。
本展では、2013年にYCAMの開館10周年記念イベントの一環として開催した坂本龍一の展覧会「ART–ENVIRONMENT–LIFE」の展示作品3作品を一部改訂して再度展示するものです。坂本は開館10周年記念イベントにおいて、アーティスティックディレクターとして、イベント全体の統括を担当しており、その時の中心的なコンセプトが〈アート〉〈環境〉〈ライフ〉で、同展はその象徴的な展覧会のひとつでした。
展示作品はいずれもアーティストの高谷史郎と共同で制作したインスタレーション作品で、自然と人間社会の境界で長い時間をかけて発展してきた「庭」という文化の形式に、多くのインスピレーションを受けています。水滴と波紋、樹々の生命活動の痕跡がもたらす揺らぎ、霧と移ろう映像、そしてそれらを包み込むサウンド。不定形で、刻々と変化する作品たちは、画一的な意味に収まることなく、鑑賞者に社会や日常生活の外にある、自然や環境のリズムや諧調へと同期していくことを促します。
会場はYCAMだけに留まらずに、駅通りにオープンしたYCAMの分館に当たるサテライトA、そして雪舟庭で知られる常栄寺。景観とともに、作品を鑑賞することで、大きな時間の流れをより深く感じることができるでしょう。

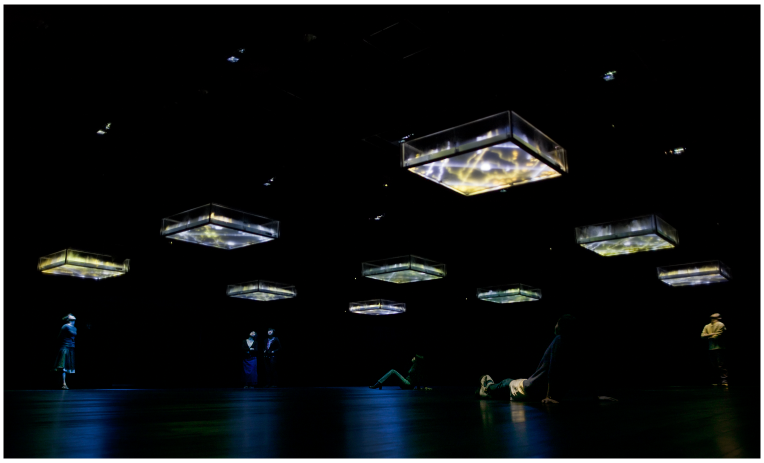
坂本龍一（さかもと・りゅういち）

音楽家。1952年東京生まれ。1978年『千のナイフ』でソロデビュー。同年『YELLOW MAGIC ORCHESTRA (YMO)』に参加。散開後も多方面で活躍。また、数々の映画音楽を手がけ、作曲家として米アカデミー賞を受賞するなど 世界的な評価を得つつ、常に革新的なサウンドを追求している。
環境や平和問題への言及も多く、森林保全団体「more trees」の創設、「stop rokkasho」、「NO NUKES」などの活動で脱原発支持を表明、また「東北ユースオーケストラ」を立ち上げるなど音楽を通じた東北地方太平洋沖地震被災者支援活動も継続して行っている。

高谷史郎（たかたに・しろう）

1963年生まれ。1984年からアーティストグループ「ダムタイプ」の活動に参加。様々なメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作に携わり、世界各地の劇場や美術館等で公演／展示を行う。1998年からダムタイプの活動と並行して個人の制作活動を開始。マルセイユ・フェスティバル、國家兩廳院（台湾）での公演や、ZKM（ドイツ）、パリ科学産業会館、シャルジャ・ビエンナーレ（UAE）などでの作品展示、また、中谷芙二子、野村萬斎、樂吉左衞門らとのコラボレーション作品も多数。今年6月オランダ・フェスティバルで坂本龍一との新作公演「TIME」を世界初演。2022年ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展でダムタイプが日本代表作家として日本館で展示予定。

展示作品1：坂本龍一＋高谷史郎《LIFE ― fluid, invisible, inaudible... 》



坂本龍一＋高谷史郎《LIFE ― fluid, invisible, inaudible... 》
撮影：丸尾隆一（YCAM）

「LIFE ― fluid, invisible, inaudible...（ライフ ― フルーイド・インビジブル・インオーディブル）」は、坂本と高谷とのコラボレーションにより制作されたインスタレーション作品で、2007年にYCAMでの滞在制作を経て発表されました。初公開後は世界各地に巡回しており、東京、ヨーロッパへの巡回、2013年のYCAMでの再展示、韓国、中国の展示を経て、8年ぶりの展示となります。

ノンリニアな〈共生系〉に向けて

本作は、闘争と分裂の時代であった20世紀の総括と、21世紀に向けた共生のビジョンの提示を試みた坂本龍一のオペラ作品「LIFE」（1999年）を解体／再構築するかたちで制作されたインスタレーション作品です。
中空に浮かんだ9つの水槽には霧が充満し、そこに映像が上方から投影されており、また水槽に対応して設置された18台のスピーカーから発生する音が会場に響き合います。映像は20世紀の歴史的な出来事の記録映像が引用されており、サウンドは20世紀のさまざまな音楽様式を参照して作られた楽曲から構成されます。
ゆらめく霧を透過して刻々と姿を変える映像と、降り注ぐような音は、同期と分散を繰り返しながら空間内で複雑に交錯していきます。観客は歩き回ったり寝ころんだりしながら、移ろいゆく光と音の世界に身を委ね、見えるものと見えないもの、聴こえるものと聴こえるものとの間にある界面へと知覚を開くことになります。

展示作品3：坂本龍一＋高谷史郎《water state 1》

坂本龍一＋高谷史郎《water state 1》
撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

「water state 1（ウォーター・ステート1）」は、坂本と高谷のコラボレーションによって制作されたインスタレーション作品で、2013年にYCAMでの滞在制作を経て発表されました。

水が見せる多様な様態をメディアテクノロジーで抽出する

水は温度によって氷、水、水蒸気と、その様態を変える。水がつくり出す雨、雲、霧、雪、海、河、湖、滝、氷山、氷河などの自然現象は、どれをとっても、いつまで眺めていても飽きることはない。
また、この惑星の表面積のおよそ7割が水に覆われ、私たちの身体の7割が水でできており、生命の源でもある。
— 坂本龍一

会場の中央には、一見鏡と見間違うほど澄んだ水面を持つ台座と、岩が周囲に配置されています。水面には、会場を包み込む繊細なサウンドに呼応するかのように水滴が落ち、波紋が広がります。時間をかけ水滴の落ちる量やスピード、場所が変化し、水滴に合わせ、会場内の光量が微かに変化していくなか、鑑賞者は水滴によって波紋が広がり干渉しあう様子を眺めます。水の様態の変化を起点とした、環境のわずかなコントラストの変化により、さまざまな記憶を喚起させることで、環境への意識が開かれていきます。水の様態を中心に据えた庭のような作品からは、雪舟をはじめとする、日本ならではの自然や環境に対する眼差しが想起されます。

展示作品2：坂本龍一＋YCAM InterLab《Forest Symphony》

坂本龍一＋YCAM InterLab《Forest Symphony》
撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

「Forest Symphony（フォレスト・シンフォニー）」は、2013年に坂本とYCAMが発表したアートプロジェクトで、ここから派生したインスタレーションとウェブコンテンツです。今回は昨年に引き続き、雪舟庭で知られる常栄寺を会場に改訂したバージョンを展示します。

森が奏でる交響曲（シンフォニー）

2011年の東日本大震災の後、坂本は〈人類が生きる環境〉を支える森林へと意識を向けるべく、樹木が発する微弱な生体電位を元に楽曲を制作するというアートプロジェクトを構想しました。そのプロジェクトにYCAMが参画し、インスタレーションやウェブコンテンツとして展開したものが「Forest Symphony」です。
本プロジェクトでは、YCAMが樹木の生体電位を計測し、ネットワーク経由でサーバーに集積するセンサーデバイスを開発。世界各地の樹木にそれを設置し、生体電位を収集しています。そして、集められた樹木のデータにもとづき、会場を包み込むサウンドを生成するとともに、アーティストの高谷史郎のビジュアルディレクションのもと、生体電位の変化や、センサーデバイスが設置された環境の情報を視覚的に表現。これらをサウンドインスタレーションとして空間的に統合し、季節や天候に応じて変化を続ける〈森のような空間〉が現出します。雪舟ゆかりの地、常栄寺雪舟庭を眺めながら、微細に変化する森の息遣いに耳を傾けるかのような観賞体験を楽しむことができるでしょう。

開催概要

坂本龍一＋高谷史郎＋YCAM
ART–ENVIRONMENT–LIFE 2021

2021年10月8日（金）〜2022年1月30日（日）
入場無料※ただし、常栄寺雪舟庭入場料は別途必要
休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日〜1月3日）

会場1
山口情報芸術センター［YCAM］スタジオA
坂本龍一＋高谷史郎《LIFE ― fluid, invisible, inaudible... 》
10:00〜18:00

会場2
山口情報芸術センター［YCAM］サテライトA
坂本龍一＋高谷史郎《water state 1》
10:00〜18:00

会場3
常栄寺（山口県山口市宮野下2001）
坂本龍一＋YCAM InterLab《Forest Symphony》
10:00〜16:30

※会期中の土日祝日に、各会場をつなぐシャトルタクシーを運行します。

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団
助成：令和3年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業
共同開発：YCAM InterLab
企画制作：山口情報芸術センター［YCAM］
山口ゆめ回廊博覧会関連事業

関連イベント

ギャラリーツアー
2021年10月10日（日）、16日（土）、17日（日）、23日（土）、24日（日）、30日（土）
11月6日（土）、13日（土）、20日（土）
12月4日（土）、11日（土）、18日（土）、25日（土）
2022年1月8日（土）、15日（土）、22日（土）、29日（土）
常栄寺：12:30〜13:00／サテライトA：14:15〜14:45／スタジオA：15:30〜16:00
定員：5名（申込不要）
展示作品をスタッフとともに鑑賞するツアー形式のイベントです。
展覧会の背景にある社会的テーマや技術的動向についての解説のほか、参加者同士で作品について議論し、意見を共有する機会も積極的に設けていきます。

関連ワークショップ
2021年11月〜2022年1月
展示作品にまつわるワークショップです。「やまぐちアートコミュニケーター・プログラム」の一環として期間中複数のワークショップを実施します。
※詳細は10月以降にYCAMのウェブサイトをご確認ください。